

そなえよ つねに【Be Prepared】

Introduction

「そなえよ つねに (Be Prepared)」 皆様はこの言葉をご存じでしょうか。この言葉はボーイスカウト運動の創始者である、ロバート・バーデン・パウエル卿が提唱したモットー（標語）です。今回は知る人ぞ知る「そなえよ つねに」の石碑がある、京都の岡崎公園にお邪魔しました。

岡崎公園と石碑

「岡崎」と呼ばれる京都市東部の平安神宮一帯は、美術館が集まったアート&カルチャーで人気のエリアになっています。このコンパクトな岡崎エリアの中で、多彩なアートを観賞し、京都の伝統産業や能楽などの文化にふれることができます。琵琶湖疎水沿いや公園を散歩したり、動物園で遊んだり。さらには平安神宮や南禅寺など、京都の観光名所まで巡るのが岡崎エリアの魅力です。

そんな岡崎エリアの敷地の一角にひっそりとたたずむ石碑があります。京都会館東側、広場の隅に建つ「そなえよ つねに」の碑です。背後の碑文によると、大正天皇御賜大礼（大正4年）が挙行された時、京都ボーイスカウトの前身が式典に奉仕してから80年を記念して建てられたものだそうです。



ロバート・バーデン・パウエル卿
(1857~1941)

三利特殊鋼の取り組み

「そなえよ つねに」この言葉はもともとボーイスカウトのモットーで、「[いついかなる事が起こった場合でも善処ができるように、常々準備を怠ることなかれ]」ということですが、弊社においても平時から準備をしています。

このコロナの時期は電車通勤の社員には時差出勤、事情により会社に通勤ができない社員へのためのリモートワーク対応のシステム構築、マスクの支給や装着義務、事務所内が密にならないよう会議室や応接間などを利用し、各部屋に少人数制で社員を分散する。2m以上の間隔をあけて仕事をするなど、様々な感染対策への取り組みを進めています。

コロナ禍の中、今私たちに何ができるか。働き方以外にも、仕事内容を見直していく上で、私たちは「IOT」に取り組むことにしました。



【IOT】への取り組み

▶ IOTとは？

ではそもそもIOTとは何か。IOT【Internet Of Things】とはモノのインターネットといい、自動車、家電、ロボット、施設などのあらゆるものがインターネットに繋がり情報のやり取りをすることで、モノのデータ化やそれに基づく自動化等が進展し、新たな付加価値を生み出すというものです。

弊社で長年使用されてきたシステムでは、こうしたシステムと結びついていないままの書類や、データなどの情報を上手く活用できない状態になっていたため、「ペーパーレス」に向けて新たにシステムの導入を行うこととなりました。

▶ 導入まで…

システムの導入にあたり、中小企業診断士の方をお呼びしてお話を伺います。具体的にどのようなシステムにしているか、導入にあたっての問題点は何かを洗い出し、改善点を明確にしていけます。これにより、仕事の流れが不明瞭な部分のルール化を行うこととなりました。社長の濱井を筆頭に、若い社員を集めて改善チームを結成し、数多くの改善活動に取り組みました。

仕事の流れを見直してルールを作り、困っていることはないかヒアリングを行い、ひとつずつ解決に向けて意見を交わし、改善を行いました。その後、現在はシステムについての打ち合わせに取り組んでいます。

▶ 現在

このような改善活動の結果、事務作業が3割程度削減。とても時間の取られていた書類探しの時間も、大幅に削減することができました。またチャットアプリを活用し、離れて仕事をする社員とも積極的に情報共有ができるように整えたり、搬入口にwebカメラを設置し、搬入出状況を逐一をチェックできるようにするなど、インターネットを活用した様々な取り組みが進められています。

▶ 最後に

私達三利特殊鋼は「お客様へのより良いサービスの提供と品質の向上」を目指し改善活動を続けながらシステムの導入に向け準備を進めて参ります。